

*今月号は私が担当しました。



営農振興課
営農経済渉外係長
田中 裕子

小麦の カラスノエンドウ対策

近年、小麦のほ場でカラスノエンドウの発生が多くなり、収穫した小麦に種子が混入する事例が見受けられます。

カラスノエンドウの種子は、小麦の調製を行う際に、ふるいで落とすことができないので、調製後の製品への混入が問題となります。そのため、収穫した小麦への混入程度によっては、共乾施設への荷受けをお断りする可能性もあります。



カラスノエンドウ

小麦栽培の際には、播種直後に土壌処理除草剤を使用し、雑草の防除を行います。この除草剤は、

約一か月程度効果が期待できますが、この間のカラスノエンドウの出芽は全体の50%程度と言われている。初期の除草剤の効果が切れた、播種後一か月以降からも残りの50%が徐々に出芽をします。土壌処理除草剤だけでは防除が困難なため、中期除草剤での防除が必要となります。

従来であれば、カラスノエンドウの防除には、葉茎処理剤としてアクチノールB乳剤をおすすめしていましたが、現在は入手が困難な状況となっています。

中後期除草剤について

● バサグラン液剤

散布時期(1月下旬～2月中旬)
生育期・収穫45日前まで

カラスノエンドウへの効果は、△の評価(表1)ですが、出芽後すぐの2葉期までは、高い効果が得られるという報告があります。葉数が増えると効果が弱まるため、小麦のほ場をよく観察し、2葉期までに散布を行います。併せて小麦に絡みつき、倒伏の原因となるヤエムグラへの効果が高いため、同時に防除を行います。

● MCPソーダ塩

散布時期(3月上旬・茎立期前)
幼穂形成期 収穫45日前まで

暖かい方(最低15℃以上)が効果が高く、低温条件では抑制状態のまま、完全枯死に至らない場合

もありません。散布後の降雨により効果が低下するため、好天の日中を選んで散布しましょう。

使用時は、近隣の広葉作物に飛散しないように注意しましょう。

● ハーモニー75DF

散布時期(3月)
収穫45日前まで

カラスノエンドウに対しては抑制効果はありますが、完全枯死にはいたりません。スズメノテツポウやヤエムグラとの同時防除を行ってください。使用時期や、雑草の大きさに合わせて除草剤の選択を行います。

表1 小麦 中期除草剤 雑草スペクトラム

	カラスノエンドウ	ヤエムグラ	スズメノテツポウ
バサグラン液剤	△ (1~2葉期は効果あり)	◎~○	×
ハーモニー 75DF	△~○抑制するが枯死しない	◎	◎
MCPソーダ塩	◎ (マメ科)	△	×
エコパートフロアブル	×	◎	×

表2 小麦 一年生雑草・広葉雑草の除草剤

農薬名	作物名	使用量 (希釈水量)	使用時期	使用回数
バサグラン液剤	小麦	100~200ml/10a (70~100L/10a)	生育期 但し収穫45日前まで	1回
ハーモニー 75DF	小麦	3~10g/10a (50~100L/10a)	節間伸長開始期~穂ばらみ期 但し収穫45日前まで	1回
MCPソーダ塩	麦類 (秋播麦類)	200~300g/10a (70~100L/10a)	幼穂形成期 但し収穫45日前まで	1回
エコパートフロアブル	小麦 (秋播)	50~100ml/10a (100L/10a)	小麦節間伸長開始期まで 但し収穫45日前まで	2回

う。茎葉処理剤は、小麦が大きくなると、直接雑草に付着しにくく、効果が弱まる傾向があります。定期的に、ほ場を確認し、カラスノエンドウの葉数が少ない時期に防除を行います。

また、農薬を使用する際は、ラベルに記載された登録内容を必ず確認し、適切に使用しましょう。